

内分泌代謝内科医長 安井 順一

至誠一貫



糖尿病診療における最近の話題

血糖測定器の進化

最初は、「間歇スキャン式持続血糖測定器」であるFreeStyle リブレ®の進化です。2024年に新型リブレ® 2が登場し、多くの患者さんが使用しています。リブレ®は、グルコース値を連続的に測定することで、血糖の動きを“線”として可視化できる機能を持っています。この機能により、患者さんがご自身で食事や運動が血糖値に与える影響をより深く理解し、治療の質を向上させることが可能となりました。さらにリブレ®2では、専用アプリを利用することで8時間おきのスキャンが不要となり、使いやすさが大きく向上しています。

インスリンポンプの進化

次に、1型糖尿病の治療に使用するインスリンポンプの性能向上についてです。2021年当時、当院ではミニメド®640Gインスリンポンプを使用していました。この機種は、低血糖を予測して基礎インスリンの注入を自動で一時停止する機能を備えており、低血糖の予防に役立っていました。2024年から導入したミニメド® 780Gインスリンポンプは、低血糖だけでなく高血糖も予防・抑制する機能を備えており、大きな進化を遂げています。このポンプの登場により、インスリン分泌能がほとんど失われている患者さんの血糖管理が改善され、生活の質が向上しています。

新薬の登場と将来への期待

治療薬の分野でも注目すべき進展があります。2025年1月に世界初となる週1回投与型の持効型溶解インスリンアナログ製剤が使用可能となりました。これにより、糖尿病治療の選択肢はさらに広がり、患者さんやご家族にとってより効果的で負担の少ない治療が期待されます。患者さんやそのご家族に治療内容を丁寧にご説明し、ご納得いただいた上で最適な治療を進められるよう、引き続き努めてまいります。



当科カンファレンス



リブレ®2
(アボット社HPより引用)



インスリンポンプ
(日本メトロニック株式会社HPより引用)